

22-03-29

## 2022 年度 名古屋鉄道 設備投資計画

～安全で快適な鉄道サービスの提供と沿線地域の活性化を推進～

名古屋鉄道では、「名鉄グループ中期経営計画 Turn-Over 2023」（2021 年度～2023 年度）に基づき、2022 年度設備投資計画をまとめました。

2022 年度においては、鉄道事業における安全・安定輸送確保および駅・車両の快適性向上に向けた投資のほか、沿線地域活性化に資する取り組みへの戦略的な投資を継続して行います。

### ■ 設備投資計画の概要

| 事業   | 主な投資項目  | 金額     |
|------|---|--------|
| 鉄道事業 | 1 安全・安定輸送確保<br>・高架化工事の実施<br>・高架橋柱の耐震補強の実施<br>・安全性向上および省力化に向けたシステムの導入拡大                          | 106 億円 |
|      | 2 駅・車両の快適性・利便性向上<br>・通勤型車両 9500 系及び 9100 系の新造<br>・駅改良・バリアフリー化工事の実施<br>・将来的な機能拡充を見据えた新型券売機の開発・導入 | 75 億円  |
|      | 小 計   | 181 億円 |
| 開発事業 | ・東岡崎駅前再開発計画の推進<br>・データセンターの建設   | 59 億円  |
| その他  | ・沿線地域活性化および旅客サービス向上に資するシステム改善<br>・業務効率化に向けた DX の推進  | 12 億円  |
|      | 総合計   | 252 億円 |

(参考) 上記以外に、名鉄都市開発(株)へ移管する不動産事業に関する設備投資の総額： 38 億円  
名古屋鉄道を含む名鉄グループ設備投資計画の総額： 763 億円

## ■ 鉄道事業の主な項目

### 1. 安全・安定輸送確保

- 安全対策推進と都市計画事業の一環として、4カ所で高架化工事を実施します。

|                      | 区間             | 距離    | 除却踏切数 |
|----------------------|----------------|-------|-------|
| 知立駅付近<br>(名古屋本線・三河線) | 一ツ木駅～牛田駅間      | 1.6km | 2箇所   |
|                      | 重原駅～三河八橋駅間     | 3.4km | 8箇所   |
| 喜多山駅付近<br>(瀬戸線)      | 小幡駅～大森・金城学院前駅間 | 1.9km | 8箇所   |
| 若林駅付近<br>(三河線)       | 三河八橋駅～竹村駅間     | 2.2km | 4箇所   |
| 荏安賀駅付近<br>(尾西線)      | 二子～名鉄一宮駅間      | 1.8km | 3箇所   |

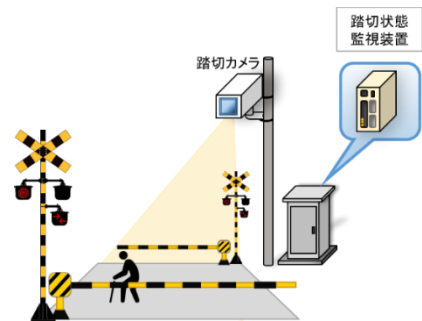


知立駅付近の高架化工事



喜多山駅付近の高架化工事

- 大規模地震による被害を最小限に抑えるため、高架橋柱の耐震補強を実施します。
- 金山駅でホームドア設置に向けて、測量や設計検討を進めます。
- PTC（列車運行管理システム）による信号制御対象エリアを拡大し、さらなる安定輸送や業務効率化に努めます。
- 踏切障害物検知装置の更新や遠隔監視システム導入踏切の拡大により、踏切道の保安度向上を図ります。



踏切遠隔監視システム(イメージ)

### 2. 駅・車両の快適性・利便性向上

- 車内の安全や環境に配慮した通勤型車両 9500系・9100系を計 18両新造します。  
※9500系（4両組成）4編成、9100系（2両組成）1編成



9500系



車内防犯カメラ(1両につき3か所設置)

- 聚楽園駅、印場駅におけるバリアフリー化工事を進めます。  
 (整備内容) 聚楽園駅 改札内エレベーター2基 多機能トイレ ほか  
 印場駅 改札内エレベーター2基 多機能トイレ ほか
- 新型券売機や新型チャージ機の導入を進めます。券売機については定期券購入など新機能の開発を進め、利便性向上とより効率的な駅運営を目指します。
- 金山駅の大規模リニューアルを推進します。
  - ・新たに中央・東改札内にエレベーター・多機能トイレ整備を実施し、バリアフリー化を推進します。
  - ・お客さまへの案内充実化のため、行先表示器の更新に着手します。
  - ・駅施設や商業施設等のリニューアルを進めます。



新型券売機(イメージ)



新型チャージ機(イメージ)



行先表示器(イメージ)

## ■ 開発事業の主な項目

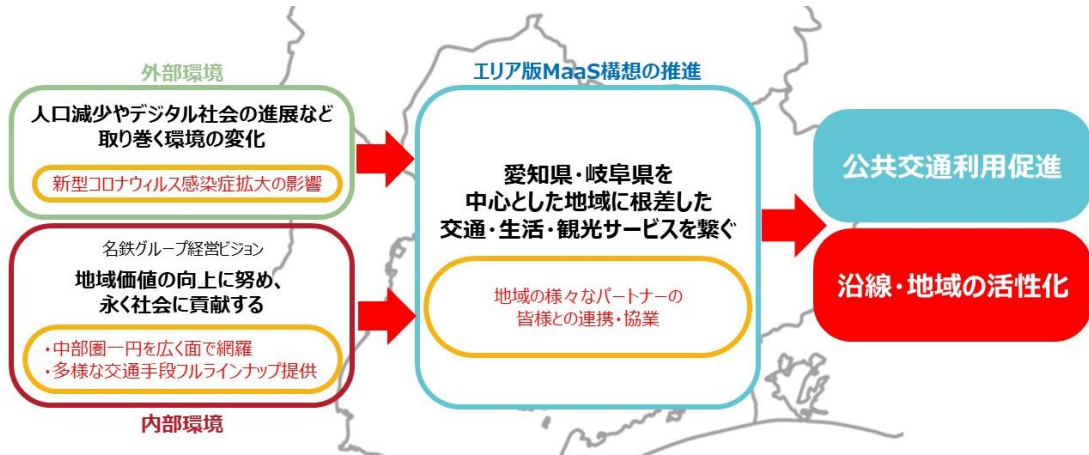
- 東岡崎駅において、東岡崎駅前再開発計画を推進します。(資料②参照)
- 神宮前駅周辺において、「(※)エッジデータセンター」としての需要を見据えたデータセンターを、2024年の完成に向けて建設を進めます。



(※)エッジデータセンター  
 利用者の近くに設置する小型のデータセンターのこと。離れた場所ではなく、利用者の近くのDCでデータを運用できれば、通信の遅延が少なく、リアルタイムで情報を処理、分析できるようになる。

## ■ その他の項目（沿線地域活性化および旅客サービス向上）

- エリア版 MaaS の推進に向け、「CentX」をさらにおでかけに便利なアプリとするべく、当社沿線ハイキングのサービスデジタル化など機能拡充を図ります。



エリア版 MaaS 構想の推進イメージ

以上